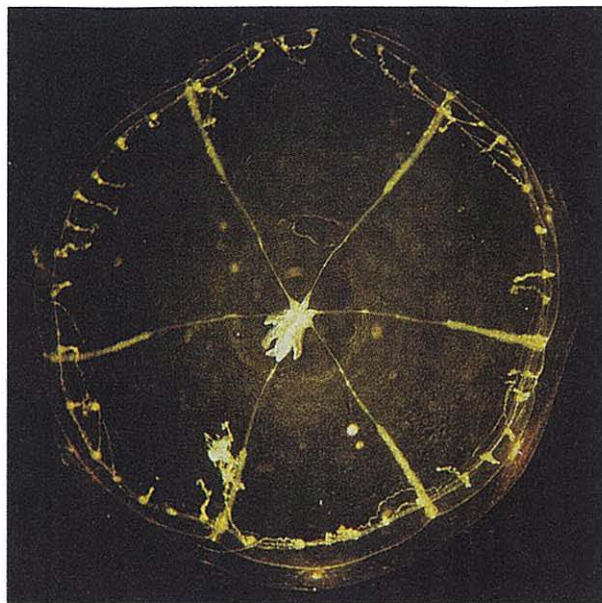


マツバクラゲ



6本の放射管を持つマツバクラゲ (兵庫県明石産)

久保田 信

97



マツバクラゲは、クラゲの仲間では珍しく、6本の放射管と六つの口唇(こうしん)を持つ。マツバと冠(こう)されている。

傘径は30ミに達し、ヒドロクラゲの中では大型種である。体のサイズに見合って、傘縁には触手や平衡胞がそれぞれ60以上もある。傘縁に糸状体は一切ない。近縁のエイレネクラゲと基本的には類似した形態だが、エイレネクラゲが大多数のクラゲのように

4本の放射管と四つの口唇を持つことで区別される。

傘の真ん中から垂れ下がる口柄(こうへい)の上にはゼラチン質の長い口柄支持柄がある。口唇は傘口より突き出した所に位置する。そういう形になることで、餌も捕りやすく、のみ込みやすくなるのかもしれない。これもエイレネクラゲと同様である。

マツバクラゲは本州から九州の太平洋岸や瀬戸内海から記録されているが、田辺湾ではまれである。世界では、インド洋や西太平洋に分布する。

ポリプは、日本での確認はまだだが、外国産のはプランクトン性で単体性であることが確認されている。しかもポリプは奇妙なことに、浮遊生活中、1個体の若いクラゲに直接変態するのである。通常、ヒドロクラゲの仲間のポリプは、群体性で殻が発達し、海底で付着生活をしている。だから、この方法をとるのはめったにない。

(京都大学准教授)